

評価項目	評価内容
I. 教育理念・教育目的・教育目標	<p>新カリキュラムに向けて約2年の歳月をかけて、教育理念・目的・目標・教育内容を評価・検討してきた。「地域住民の健康と安全を守る」ことを目的とし、「人を大切にする心」と「考える力」を育成することを柱とした。教育目標は内容と卒業生像に一貫性がある。ディプロマポリシーで示された卒業時の到達目標となり、目指すべき看護師像が明確になっている。これらの教育理念・目的・目標は県への申請においても承認された。</p> <p>現在、新たな教育理念・目的・目標を講師や実習関係者に理解していただくよう、様々な取り組みを行っているがコロナ感染症の影響で遠隔授業が多くなったため周知が不十分なところもある。次年度も学生への説明、各教室や講師控室へ「教育理念・目的・目標」の掲示、外部講師への説明、実習要項への明示を継続していく必要がある。また、就職病院にお願いする「卒業後の状況調査」や卒業生に対する「卒業時のカリキュラムに関する満足度調査」等のデータを用いて、教理念・目的・目標と関連付けて、実習関係者や外部講師、学生に説明することで、さらなる周知を図っていく必要がある。</p>
II. 教育課程	<p>現行カリキュラムから新カリキュラムへの移行に向けて教員全体で検討を重ね、教育理念・目的・目標と整合性が担保できるように科目と単元を設定することができた。今年度先行して実施された「老年看護学実習Ⅰ」において地域を巻き込んだ深い学びにつなげることができている。また、「多職種連携」においては昨年度の振り返りを活かし、他校との共同学習により視野を広げた学びにつなげることができ、本校の特徴を表すことができた。教育課程評価の体系については、学校関係者評価において妥当であると評価を受けている。各科目の講義終了時に学生が取り組む講義アンケート結果をもとに、講義の評価を行い、次年度に活かすこともできていた。評価結果の取り扱いに関しては、「特定個人情報取扱規程」において厳重に管理されている。評価結果の活用における倫理規定が明確化されているため、今後も維持していく。</p> <p>今年度より発足した委員会活動が軌道に乗りつつあり、教員の業務負担の軽減だけでなく、学生の主体性を伸ばすことにも繋がっている。1年間の活動内容を評価し、学生の主体性を高め、自律心を養えるようにサポートしていく。</p> <p>新カリキュラムに向けて必要な文献を購入し各々の教員が自己研鑽に励んでいる。今後もオンライン等の研修への積極的な参加と、新任教員への業務のサポートや指導案へのアドバイス等を通して、相互研鑽システムをより充実させていく</p> <p>今年度の臨地実習において、各実習施設と密に連携を取り、実習計画に沿ってZoomでのカンファレンスに指導者や認定看護師、教育担当看護師に参加していただくことで学生の効果的な学びを確保でき、実習単位の修得ができた。</p>
III. 教授、学習、評価過程	<p>新カリキュラムが承認された。日本看護学校協議会からの『技術項目「卒業時の達成度」の達成に向けて』看護技術の演習の検討を行い、演習内容を整理した。実施率が低いものについては、今後も演習での工夫、実習場への依頼をしていく必要がある。また新出題基準が発表され次第、内容を検討し授業内容へ反映していく必要がある。</p> <p>今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったが、その都度感染状況を判断しリモート授業へと切り替えることができた。演習についても密にならない工夫をして対面で実施した。臨地実習についても中断を余儀なくされることもあったが、遠隔実習、学内実習へと切り替えて実習を継続することができた。次年度も同様の事が予測されるため、状況に応じて判断し対応していく必要がある</p> <p>各教員は評価結果および講義評価をもとに授業改善に取り組んでいる。外部講</p>

	<p>師に関しても授業評価を郵送している。今年度、授業評価が大きく低下した科目はなかったが、一部の科目で例年より多くの単位未修得者があり、授業改善に向け働きかけ外部講師と検討していく必要がある。また、医学映像等を利用し、授業外での講義の補強も検討していく必要がある。実習における技術項目達成度とチェック表については、学生自ら入力できるシステムが整った。</p> <p>実習評価はこれまでの優・良・可より点数化へと変更となった。今後も点数評価を続け、実習評価について検討を重ねていく。</p>
IV. 経営、管理過程	<p>教育理念・教育目的、教育課程経営、教育評価、管理運営等による考え方は、管理者により明示されている。コロナ禍であっても定期的に運営会議が開催されその内容の周知もできている。組織体系や権限、役割機能に変更はなく、通常の教員会議以外で意思決定が必要な場合は、臨時で教員会議を開催するなど組織構成員の意思を反映・周知することができた。次年度もこの体制を維持していく。</p> <p>学校の財政基盤は、新型コロナウイルスの影響による医師会全体の減収が見込まれている。そのためどのような財政状況となっているか情報を得ていく必要がある。年間を通して、計画的に学習・教育環境の整備が行われ、学生は学生生活を円滑に送ることができている。</p> <p>学籍支援システムがバージョンアップされ、次年度から本格的な運用が開始される。教職員の業務が円滑に進むよう利点と欠点を明確にし、意見交換しながら運用していく。iPadの活用についてはより学生が効果的に活用できるよう学生の意見を聴取する必要がある。その結果も踏まえ、学生の希望が取り入れられるよう整備する。</p> <p>また、学生が学修を継続できるよう、新型コロナウイルスに係る給付金についての情報も学生に提示し13名の学生が申請し、支援を得ている。常に相談に応じながら対応することができた。</p> <p>ホームページのトピックスの更新件数は43件であり、昨年度の31件と比較すると大幅に増加した。学校関係者評価で示された他学校との差別化という点では、担当講師の紹介動画をアップしたことや、SNS (Instagram) を開設したことで、養成所のアピールにつながったと言える。</p>
V. 入学	<p>入学者選抜についての考え方は学校運営に関する諸規定、看護学校養成所案内、募集要項に示されているため継続する。</p> <p>受験者数は受験者年齢層の人口減少に加え、コロナ感染症による大学の県外受験者の減少に伴い、県内受験者は大学進学が容易となった。そのため、当校に限らず、専門学校への受験者が激減することとなった。今年度の受験者数は過去最低の受験者数となった。今後は広報活動の充実だけでは限界があり、定員を確保するためには新たな対策が必要である。このような現状を踏まえ、運営会議では社会人入試や入試回数を増やすなど早期に対策を検討している。</p>
VI. 卒業、就業、進学	<p>卒業後の到達状況の把握・分析は例年同様に実施できている。本年度はアンケートを1ヶ月遅らせ10月に実施したことにより、より正確に卒業後半年の到達状況が反映できたと考える。又、卒業時に学生に承諾を得ることで回収率は100%となった。時期・方法は適切であったためこのまま継続する。又、本年度よりその結果を在校生にも開示し、社会から求められる能力、自分たちに不足している能力を意識して学習に向かうようにする取り組みもはじめた。</p> <p>実習病院との連携は、継続してできている。次年度も実習病院との連携会議が開催予定であり、情報交換を密に行いながら看護基礎教育の充実を図っていく。</p> <p>今年度の卒業生には同窓会の説明時に同窓会会長より就職状況の連絡をするようお願いしてもらった。又、同窓会には同窓会名簿の定期的な点検や卒業生を対象とした交流会の企画など同窓会が自立して活動していけるようお願いする</p> <p>また「卒業後の状況調査」結果や連携会議により分析評価し、新カリキュラムの教育理念・教育目的、教育目標に反映できている。更に一部科目では先行し授</p>

	業展開しているものもある。来年度より新カリキュラムの授業を実際に展開することにより、その教育効果を追跡調査していく。
VII. 地域社会、国際交流	<p>地域貢献としては、わくわくスクール（松阪市立中学校）・献血（三重県献血センター）の継続、今年度新たに追加されたものとして、教員によるコロナワクチン集団接種ボランティア（松阪市・三重県）、地域機関の要請により協力することとなった、ハンドサインキャンペーン（松阪警察）・フードドライブキャンペーン（松阪市社会福祉協議会）に協力した。今後も感染予防行動を徹底しつつ、積極的に地域活動に参加し、地域との情報共有及び地域への情報発信・地域の特徴の把握に努め、地域内の諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れていくことが必要である。</p> <p>来年度は松阪地区医師会の特性を生かし、地域と密着した科目がはじまる。この項目は更に発展できると思われる。</p>
VIII. 研究	<p>研究の体制については、財政的・環境的には整っているが、本年度も研究にはいたらなかった。又、SPSSの活用のため講師を招いて学習予定であったが、時間調整が困難で来年度へと延期になってしまった。R4年度に実施予定である。新カリキュラムの新しい科目の授業研究も各教員が取り組むべき課題である。</p>

# R3年度評価項目ごとの点数

松阪看護専門学校

評価項目	R3年度 評価点数	R2年度 評価点数	R1年度 評価点数
I. 教育理念・教育目的・ 教育目標	3.0	3.0	3.0
II. 教育課程	2.8	2.8	2.6
III. 教授、学習、評価過程	3.0	3.0	2.9
IV. 経営、管理過程	2.9	2.9	2.9
V. 入学	3.0	3.0	3.0
VI. 卒業、就業、進学	2.8	2.8	2.8
VII. 地域社会、国際交流	3.0	3.0	3.0
VIII. 研究	2.0	2.0	2.0

## 評価点数

